

遺伝子検査により GM₁h ガングリオシドーシスと確定診断 された柴犬3症例の頭部MRI所見

中本裕也^{1)†} 大和 修²⁾ 板本和仁³⁾ 長谷川大輔⁴⁾ 小澤 剛¹⁾
片伯部健吾⁵⁾ 塚根美穂⁶⁾ 中市統三³⁾

- 1) 京都府 開業 (〒611-0021 宇治市宇治式番4)
- 2) 鹿児島大学農学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24)
- 3) 山口大学農学部 (〒753-8515 山口市大字吉田1677-1)
- 4) 日本獣医生命科学大学獣医学部 (〒180-8602 武蔵野市境南町1-7-1)
- 5) 滋賀県 開業 (草津犬猫病院：〒525-0027 草津市野村3-18-11)
- 6) 広島県 開業 (おざわ動物病院：〒734-0053 広島市南区青崎2-8-29)

(2007年10月3日受付・2008年7月29日受理)

要 約

遺伝子型検査によってGM₁hガングリオシドーシスと確定診断された3症例の柴犬において、臨床診断の過程で頭部MRIが撮像された。これらの症例のMRI検査を受けた月齢は異なっていたが(症例1:3カ月齢と7カ月齢, 症例2:6カ月齢, 症例3:8カ月齢), すべてに共通して, T2強調画像で大脳白質が左右対称性に高信号を呈し, 灰白質と白質のコントラストが不明瞭であった。また, Fluid-attenuated inversion recovery画像でも同様の所見が認められた。このようなMRI所見が本疾患の特徴であると示唆されたため, 頭部MRI検査は柴犬のGM₁hガングリオシドーシスの補助的診断に有用であると考えられた。また, これら3症例の所在は近畿・中国地方であり, すべてに血統上の関連性が認められた。——キーワード: GM₁hガングリオシドーシス, MRI, 柴犬。

----- 日獣会誌 62, 219~224 (2009)

† 連絡責任者: 中本裕也 (おざわ動物病院)

〒611-0021 宇治市宇治式番4 ☎0774-21-4100 FAX 0774-21-4255 E-mail: dioinvalhalla@yahoo.co.jp